

第49回東葛しぜん観察会

「利根運河に春を探して」

龍門 海行（柏市）

日 時：2009年4月5日（日）9:30～14:00

実施場所：利根運河（運河駅ふれあい橋～柏大橋間 流山市） 天気：晴れ

参加者：大人54名、指導員25名 合計：79名

担当者：大木陽子、渋谷孝子、龍門海行

穏やかな晴天に恵まれ、集合時間までに多くの方々が参集。当日参加12名を含め54名が一般参加者でした。スタッフ集合の9時頃には既に数名の方が来て待っていたが、この日は天気も良く「利根運河桜祭り」と重なって、他のお花見グループなどと待ち合い、駅前は大分混雑していました。駅前から移動し、運河堤防の広い場所に移り、本日の予定や安全注意事項の伝達の後、班分け(5班)などをして、北山さんのリードで準備体操。満開のサクラの木の下で全員の集合写真を撮ってから、順次観察会に出発した。

まず利根運河の概要を説明し、「眺望の丘」と呼ばれる利根運河の特長を眺められる丘へと向かった。そこで再度風景を見ながら運河が直線だけでなく、なだらかなカーブで出来た理由・運河の必要性・歴史的背景などを分りやすく説明。次に運河の堤防を少し離れ、「東深井古墳の森」に入った。ここでは6～7世紀の有力豪族の古墳を見て、ホウノキの芽吹きを目の前で見られる所へ向かったが、まだ芽は固く、残念ながらほんの一部の芽吹きしか見られなかった。千葉県ではあまり見られなくなった「アマナ」の花などを観察してから、近くではイヌシデの雄雌の花や虫こぶをじっくりと観察した。そこから再度堤防へと向かい、カントウタンポポとセイヨウタンポポの違いを説明し、運河は珍しくカントウタンポポの群生地であることを確認できた。またオオイヌノフグリ(青色)とコゴメイヌノフグリ(白色)の違いを、同時に見られる場所で観察確認し、オオイヌノフグリが別名「ベロニカの涙」と言われる由来の話もした。運河の土手ではアマナの群生が見られ、白く輝いてとても綺麗でした。

予定通りの12時頃に円福寺(柏市)に着き、約1時間の昼食時間をとり、午後の部へと入った。午前中は左岸を歩き、午後は右岸を運河駅へ向かったが、途中の「カワセミの池」付近で日本では緑色でもいろいろの色合いがあることを、景色の緑と用意した数種類の緑色の紙で対比してもらった。ここでは改めて緑色(29種)の違いや多さに感心した方が多く見受けられたのが印象的であった。解散場所付近でカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの3種と一緒に見られる所で、実際に手に取り違いを体感していただいた。

《参加者の感想》 天気も良く、各班に3名ほどの指導員が同行し、諸々のフォローが出来たためか ①いろいろなお花が観られて良かった。②草花のお話しが分りやすかった。

③また参加したい。」などの感想が殆どであつた。しかし、サイクリングロードを兼ねた堤防を歩く為「自転車が通りますよ～」の注意呼び掛けがうるさいとの声が一部にあったが、安全注意のためにはやもう得ないことですね。この点の注意呼び掛け等は、時・場所・目的などにより、下見のコース確認では安全事項と共に工夫が必要かも知れないと感じた。

